

について最長10年（平均約4年半）に満期を振り分け、金利リスクを認識しています。コア預金額や満期の振り分け方法については定期的に見直しを行っています。

一方、契約上満期の定めのある預金や貸出は、満期以

前に返済もしくは解約されることがありますが、こうしたリスクについては、金利状況や返済・解約実績などを踏まえた統計的な分析から中途解約率を推計するなど、金利リスクへの反映を図っています。



VaR・Val……市場リスクは、市場全体の変動による損失を被るリスクである「一般市場リスク」と、特定の債券・株式等の金融商品の価格が市場全体の変動と異なって変動することにより損失を被るリスクである「個別リスク」に区分できます。市場リスク計測モデルによって算出される一般市場リスク量をVaR（バリュー・アット・リスク）、個別リスク量をVal（イディオシンクラティック・リスク）としています。

● 平成25年度の市場リスクの状況

(1) トレーディング業務

平成26年3月末のMUFGグループの市場リスク量は、全体では180.9億円となり、うち金利が149.8億円、外国為替が34.6億円、株式は29.0億円となっています。平成25年3月末比+51.5億円となりました。

平成25年度の日次平均の市場リスク量は207.9億円

となっており、市場リスクをカテゴリーごとに単純合算した合計に対し金利が63%、為替が25%、株価が7%となっています。

なお、トレーディング業務の性格上、ポジション変動に伴い、期中のリスク量は大きく変動しています。

トレーディング業務のVaR

(単位：億円)

	平成24年4月～平成25年3月				平成25年4月～平成26年3月			
	日次平均	最大	最小	平成25年3月末	日次平均	最大	最小	平成26年3月末
MUFG	98.6	153.2	65.5	129.4	207.9	295.0	153.4	180.9
金利	84.4	123.8	64.2	123.8	173.3	219.3	140.2	149.8
うち円	43.7	83.5	25.5	83.5	85.9	140.7	53.6	61.6
ドル	33.4	69.8	18.9	26.9	66.6	111.2	39.5	50.5
外国為替	34.0	77.2	3.4	31.9	69.3	153.0	34.6	34.6
株式	7.9	35.0	1.2	11.7	20.7	73.5	7.9	29.0
コモディティ	4.8	10.6	1.5	5.1	7.4	13.9	3.1	12.5
分散効果(△)	32.5	—	—	43.1	62.8	—	—	45.0

(算出の前提)
 ヒストリカル・シミュレーション法
 保有期間 10営業日、信頼水準 99%、観測期間 701営業日
 最大および最小欄は、リスクカテゴリーごとの実現日と全体の実現日は異なります。

平成26年3月末の三菱東京UFJ銀行のトレーディング業務の市場リスク量は、全体では70.0億円となり、うち外国為替が41.0億円、金利が39.3億円、株式が6.1億円、コモディティが0.1億円、分散効果が16.5億円となっています。平成25年3月末と比較すると、全体のリスク量は11.0億円増加しています。日次平均では、平成25年度の市場リスク量は、87.5億円と、平成24年度の市場リスク量51.3億円から増加しています。特に金利・外国為替のリスク量が増加しています。

平成26年3月末の三菱UFJ信託銀行のトレーディング業務の市場リスク量は、全体では2.8億円となり、うち金利が1.3億円、外国為替が2.9億円、株式が0.3億円、分散効果が1.7億円となっています。日次平均では、平成25年度の市場リスク量は、15.3億円と、平成24年度の市場リスク量10.8億円から増加しています。特に外国為替のリスク量が増加しています（各社のトレーディング業務のリスク量の状況を示す表は、「バーゼルⅢ関連データ」内に記載しています）。

(2) バンキング業務

トレーディング業務と同様の基準で計測したグループ全体の平成26年3月末のバンキング業務（政策投資株式の市場リスクは除く）の市場リスク量は3,321億円、うち金利は3,042億円、株式は1,729億円となっています。

バンキング業務における市場リスクをカテゴリーごとに単純合算した合計に対し、71%が金利の変動に伴うリ

スクとなっています。金利リスクを主要通貨別に見ると、平成26年3月末では円が48%、ドルが35%となっています。

なお、ポジションの減少により、MUFG全体の平成25年度のリスク量は平成24年度の市場リスク量より減少しています。

バンキング業務のVaR

(単位：億円)

	平成24年4月～平成25年3月				平成25年4月～平成26年3月			
	日次平均	最大	最小	平成25年3月末	日次平均	最大	最小	平成26年3月末
金利	4,431	5,000	4,023	4,223	4,008	4,598	3,042	3,042
うち円	2,164	2,477	1,843	2,279	2,238	2,765	1,833	1,904
ドル	2,685	3,002	2,034	2,066	1,838	2,302	1,358	1,408
ユーロ	557	987	90	852	1,098	1,561	579	609
株式	748	1,104	579	1,085	1,613	2,024	1,006	1,729
全体	4,463	4,998	4,130	4,130	4,107	4,621	3,321	3,321

(算出の前提)

ヒストリカル・シミュレーション法

保有期間10営業日、信頼水準99%、観測期間701営業日

最大および最小欄は、リスクカテゴリーごとの実現日と全体の実現日は異なります。

株式リスク量には、政策投資株式は含まれていません。

平成26年3月末の三菱東京UFJ銀行のバンキング業務（政策投資株式の市場リスクは除く）の市場リスク量は、全体では2,705億円となり、うち金利は2,585億円、株式は1,482億円となっています。バンキング業務における市場リスクを商品カテゴリーごとに単純合算した合計に対し、約64%が金利系商品の変動に伴うリスクとなっています。

平成26年3月末の三菱UFJ信託銀行のバンキング業務（政策投資株式の市場リスクは除く）の市場リスク量は、全体で733億円となり、うち金利は619億円、株式は251億円となっています。バンキング業務における市場

リスクをカテゴリーごとに単純合算した合計に対し、約71%が金利の変動に伴うリスクとなっています（各社のバンキング業務の市場リスク量の状況を示す表は、「バーゼルⅢ関連データ」内に記載しています）。

MUFGグループでは、バーゼルⅢ第二の柱に基づき、バンキング業務における金利リスクの状況をモニタリングする一環としてアウトライヤー比率*を計測しています。平成26年3月末のMUFGグループ、三菱東京UFJ銀行および三菱UFJ信託銀行のアウトライヤー比率は、下表のとおり、いずれも20%未満となっています。

アウトライヤー比率の状況

	平成25年3月末	平成26年3月末
MUFG	8.97%	6.52%
三菱東京UFJ銀行	10.50%	6.33%
三菱UFJ信託銀行	7.01%	7.02%

(算出の前提)

計測方式：金利感応度法

金利ショック幅：保有期間1年、観測期間5年の1%、99%値を使用

用語
解説

アウトライヤー比率……多くが時価評価対象外であるバンキング業務の金利リスクを管理するための指標です。持株会社およびグループ銀行では、バンキング業務の金利リスクの大きさを検証するにあたって、一定のショック幅の金利変動が発生した場合の予想損失額を広義の自己資本額（Tier1+Tier2）で除した値（いわゆる「アウトライヤー比率」）もモニタリングしています。アウトライヤー比率が20%を超えた場合、金融庁の早期警戒制度の枠組みのなかで、リスク管理の適切性や改善策についてヒアリングが行われますが、必ずしも直ちに経営改善が求められるものではありません。